

平成27年度

防災学習の概要

首都大学東京 学術情報基盤センター 助教

畠山 久

概要

背景

東日本大震災以降、防災教育への注目が高まっている

- 学校現場における避難行動のあり方
- 児童・生徒の安全確保

文科省の有識者会議での提言（文部科学省 2012）

- **主体的に行動**するための基本的な防災知識に関する指導充実
- 支援者となる視点から社会に貢献する意識を高める防災教育

しかし、現状の防災学習は座学が中心

提言を踏まえて防災学習を検討する必要
情報技術で補助することで
よりよい防災学習を実現できないか？



天羽高校における防災学習

平成26年度：防災マップ作成を通じた学習

- 学校周辺地域を調査しタブレット端末に入力
- 結果を防災マップとしてまとめ、振り返る

地域の特徴を調べ、知識として整理する

平成27年度：野外における避難訓練学習

- 学校周辺地域において地震に遭遇した想定で避難訓練を実施
- タブレット端末で移動経路を記録して振り返る

知識として整理された地域の情報に基づき、実際に訓練を行う



野外における避難訓練学習

- ① タブレット端末を持って学校外の指定された地点を巡る
- ② いずれかの地点で地震が発生し訓練開始となる
- ③ 自分たちで考え、避難場所を目指して実際に移動する
 - 。 移動中には、避難の際に遭遇し得る出来事が起こるので適切に対処をしなければならない
- ④ 避難場所まで移動すると避難訓練終了となる



学習の流れ

9月3日(木) 基礎知識の習得

10月8日(木) 避難訓練①

11月5日(木) 避難訓練②

11月21日(土) 振り返り学習



まとめ

学習を振り返って

ある地点から自分たちの判断で避難場所まで避難する

主体的な判断

選んだ避難場所・そこまでの道は班によって異なる

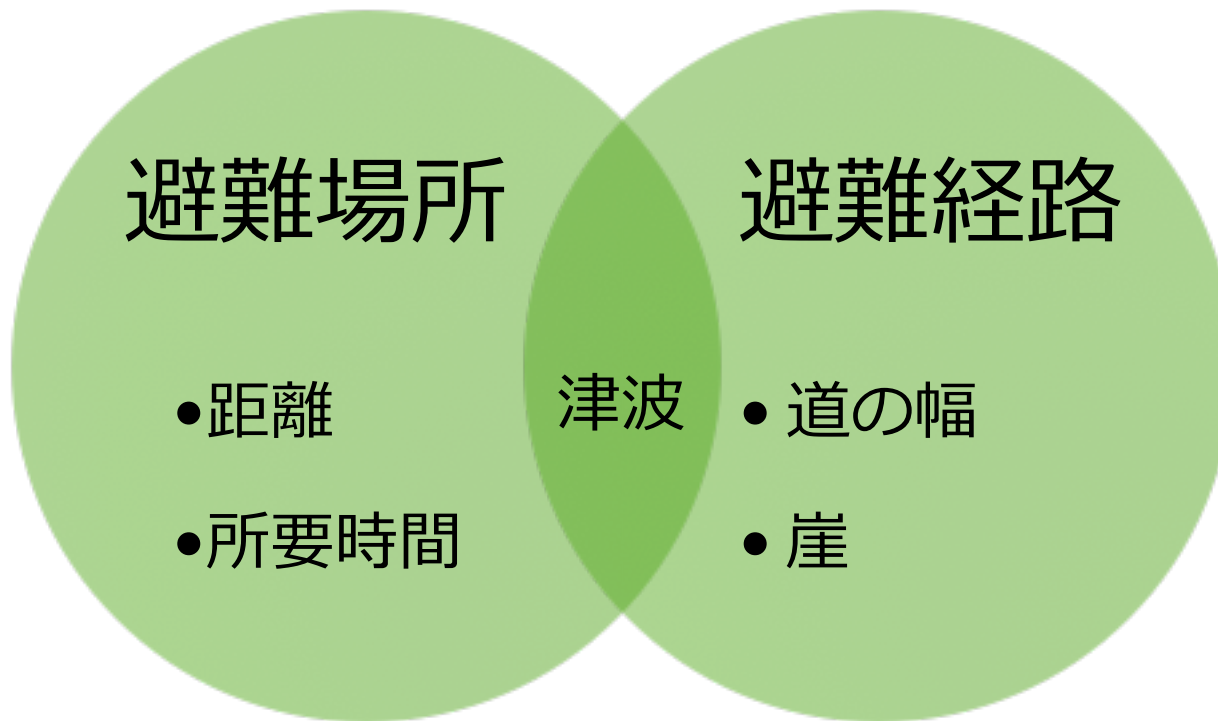
- それぞれで考えたことが異なっていた
 - 津波がくるのではないか
 - 近い避難所に行きたい
- 選ぶときの基準が様々だった

判断の基準がさまざまなことは悪いことではないが
判断の時に意識できていない点があれば確認しておくことが大事



考えるための基準

今回訓練した学校周辺（富津市）での基準の例



津波

• 距離

• 所要時間

• 道の幅

• 崖

避難場所

避難経路



状況によって変わる基準

災害の状況によって判断すること・材料は変わる

徒歩で移動？

崖の多い場所？

海の近く？

家族と避難？

警報が発表されている？

車で移動？

友達と避難？

ひとりで避難？

夜の避難？

雨が降っている？



主体的に判断すること

主体的 自分の意志・判断に基づいて行動するさま。
(大辞林より)

自分で判断して避難行動をとることが必要なこともある

- 通学途中や部活動帰り
- 自宅にいるとき
- 旅行でいつもと違う所にいるとき

自分の知っている知識を使って、様々な可能性を考える

- 地震のときにどのようなことが起こるか
- 身を守るためにはどうすれば良いか

知識を身につけ、判断の訓練をすることが大事



まとめ

自分で考えて野外で避難行動をとる訓練

- 地域のこと・特徴を知る
- 判断の基準があることを知る

実際に使う日が来ない方が良いが、備える事は大切

- 「知識」で終わらせず、実際に考えることで「判断」を訓練
- どんな危険性があるかを想像する
- 複合的な要因も考える

自助

共助

「自分の身を守る」ができると、「人を助ける」ができる

